

(別添3)

【上里町】 校務DX計画

上里町では、令和2年度に行った1人1台タブレット端末の導入時に、授業支援ソフトや学習eポータルのほか、汎用のクラウドツールを活用し、授業や家庭学習のツールとして活用してきた。また、令和4年度より校務支援システムを導入し、校務管理・学籍管理・成績管理・保健管理や教員同士の情報共有のデジタル化を推進し、教職員の資質向上と事務の効率化を図っている。この他にも、各種方面からデジタル化・オンライン化を進めてきたところではあるが、学校現場においては、依然として紙ベースの書類が多くあるのも事実である。業務の円滑化・効率化の観点から、各種デジタル化、ペーパーレス化をさらに進めていく必要がある。「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえ、校務DXに係る具体的な取組を次のとおり定める。

1. ゼロトラスト環境の構築

上里町の校務系ネットワークは、児童生徒の個人情報等を取り扱うため、これまで閉域網で運用をしてきた。セキュリティ面は強化されている一方で、児童生徒が教育活動で利用する学習系との連携が容易ではない側面があった。また、教職員の働き方改革により場所を選ばない働き方が求められる中、現状のシステムが校務DX化を阻害する要因のひとつになっているといえる。このため、現行の校務系システムの更新のタイミングを考慮しながら、文部科学省「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン（令和6年1月版）」においても示されているとおり、強固なセキュリティを確保しつつ、校務系・学習系システムのパブリッククラウド上での運用を目指す。また、端末の多要素認証の導入やゼロトラスト化を想定した準備を今後進めていく。

2. FAX及び押印の見直し

教育委員会と各学校や事業者とのやりとりにおいて、FAXを活用するものは限られているが、一部業務において、FAXでやりとりされている業務が残っている。緊急連絡やFAXの方が効率的な場合を除き原則FAXでのやりとりの廃止に向け、検討を進めている。

また、押印の見直しについては、特に必要のあるものを除き押印を廃止しているが、継続的にその必要性等を考慮し、必要に応じた見直しを行うこととする。

3. ペーパーレスの推進

各種会議資料等のデジタル化、端末を持ち込んでの会議・研修等については、一部に限られているため、さらなるデジタル化を進める。また、文書のデジタル化を進め、紙の使用を最小限にし、環境負荷を減らすと同時に書類管理の効率を図る。